

『自分史づくり』セミナーを開催しました



平成22年7月1日と8日、有限会社 光光(こうこう)編集との共催事業による講座『自分史づくり』セミナーを開催しました。

今、静かなブームになりつつある自分史。その数は年間3万冊とも4万冊とも言われています。自分史を書いてみたいと思っても、何から始めればいいのか分からないという人のために、自分史のスタイルや作業の進め方、原稿の書き方などを分かりやすく話してくださいました。

第1回は、松村朋子さんが「書き始めるまでの準備」というテーマで話をしてくださいました。

まず、「何を書かなければならないのか？」ではなく、「何のために書くのか？誰に読んでもらいたいのか？」を考えることから始めるようです。次に、アルバムを見たり、家族や友人に聞いたりすることで、思い出を振り返ります。その際、思い出したことをメモにとっておくことが後々大切です。また、当時の出来事や社会情勢を調べることも、思い出を振り返る作業には、効果的だそうです。

いよいよ書き始める時、カッコいい文章を書こうとはせず、分かりやすい文章で書くことがなにより大切です。自分の歴史を書き連ねるだけでなく、心の内面を書くことも必要です。また、成功体験ばかりではなく失敗談も交えると、読み手も楽しくなります。

第2回は、豊島慶二さんが、「実際に書いてみよう！」というテーマで話をしてくださいました。

自分史完成までの流れは「作成準備」→「原稿執筆」→「本のデザイン決定」→「^{そうてい}装丁」→「組版と校正」→「^{きつぱん}刷版・印刷・製本」です。

原稿を書き始める前に、まず仮目次を決めて、章ごとに分けます。そして、章ごとに何を書くのかが決まれば、作業も随分と楽になるようです。また、原稿を執筆する際、プロの物書きさんが気をつけていることを教えてくださいました。【例：分かりやすい文章で書く。(基本は中学2年生レベル) 論理に矛盾はないか。同じ言葉、表現を繰り返さない。など】

「自分史を作るのは偉い人だけと思われがちですが、人の生き様は十人十色。10人いれば10のドラマがあり、それを形にするのが自分史です。」「書き続けることによって、文章を書く力は必ず上達します。」と言われていたのが印象的でした。

